

健康な美人肌をめざして…

3



NPO法人 日本免疫美容協会

理事長 島野孝子

アニオン、カチオン、両性などのタイプに分けられる界面活性剤には、多くの種類があり、乳化、保湿、浸透、殺菌など多様な効果があり、化粧品作りには欠かせない材料です。しかし、中には肌に悪い影響を与えるものもあります。

ほとんどの界面活性剤は、その使用目的に合わせて配合されているので問題はありませんが、浸透性の高い、いわゆる「浸透型化粧品」といわれる化粧品に配合されているものは、当然浸透力が高く、有効成分と

一緒に肌に入っていきます。そうすると、肌の細胞はもちろんのこと、大切な免疫細胞を傷つけることがあります。

なかには印刷物のインクを溶かすほど強力な界面活性剤が配合された化粧品があり、継続して使用すると、肌トラブルを引き起こす原因になることがあります。さらには、ガンやアトピー性皮膚炎を誘引する恐れがあることも指摘されています。

界面活性剤は原材料によって、天然由来系と石油由来系に大別されま

す。その浸透力も強いものから弱いものまであります。

注意したいのは、石油由来系のものは基本的に浸透力が強く、肌にダメージを与える恐れが高いということです。石油系の界面活性剤の入った化粧品類の使用は、極力使用を避けましょう。

石油由来の界面活性剤が入っている化粧品は使用を避けなければ…

